

ならしん景気動向調査レポート

(第11回) 2017年 1月期

奈良信用金庫 総合企画部 奈良県大和郡山市南郡山町529-6

TEL (0743-54-3116) URL <http://www.narashin.co.jp>

1. 調査期間…… 平成29年1月
2. 調査時点…… 平成29年1月 (前回調査 平成28年10月)
3. 調査対象…… 当金庫取引事業先
※対象先は任意に選定(毎年一部見直し)
4. 調査方法…… 往訪面談・電話等によるヒアリング調査
5. 回答状況

	対象先数	回答先数	回答率
製造業	39	39	100.0%
不動産業	17	17	100.0%
サービス業	14	14	100.0%
卸売・小売業	31	31	100.0%
建設業	14	14	100.0%
運輸業	9	9	100.0%
医療・福祉	11	11	100.0%
全業種合計	135	135	100.0%

当金庫でお取引をいただいている事業先から業種に偏りのないよう135社を任意に選定させていただき、最近の業況・資金繰り等、景気動向に関連するアンケート項目の聞き取りについて、ご協力をお願いいたしました。
うち、135社よりご回答を賜りました。

今回調査結果一覧

平成29年1月

全業種

	対象先数	回答先数	回答率	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI
				業況	売上金額	収益	資金繰り	前年同期比売上	前年同期比収益	残業時間	人材
製造業	39	39	100.0%	35.9%	30.8%	38.5%	15.4%	23.1%	28.2%	7.7%	-12.8%
不動産業	17	17	100.0%	5.9%	-11.8%	0.0%	5.9%	-11.8%	-11.8%	5.9%	5.9%
サービス業	14	14	100.0%	35.7%	64.3%	35.7%	28.6%	57.1%	50.0%	-7.1%	-14.3%
卸売・小売業	31	31	100.0%	-3.2%	3.2%	-3.2%	6.5%	0.0%	-3.2%	9.7%	6.5%
建設業	14	14	100.0%	7.1%	0.0%	0.0%	42.9%	-28.6%	-28.6%	-35.7%	0.0%
運輸業	9	9	100.0%	66.7%	77.8%	44.4%	11.1%	77.8%	66.7%	-33.3%	0.0%
医療・福祉	11	11	100.0%	9.1%	-9.1%	9.1%	-27.3%	9.1%	9.1%	-9.1%	-27.3%
全業種合計	135	135	100.0%	20.0%	19.3%	17.8%	12.6%	14.1%	13.3%	-2.2%	-5.2%

	借入実施		設備投資実施			
	あり	なし	あり	なし		
製造業	30	9	12	26		
不動産業	7	10	2	14		
サービス業	5	8	3	9		
卸売・小売業	11	18	10	19		
建設業	7	7	1	13		
運輸業	6	3	6	3		
医療・福祉	6	5	3	8		
全業種合計	72	60	37	92		

「DI」について

「diffusion index (ディフュージョン・インデックス)」の略で、景気・業況などの動きを示すものです。
 このレポートでは、お客さまからいただいたご回答のうち「良い」「やや良い」の割合から、「やや悪い」「悪い」の割合を引いたものを記載しています。

(例) 業況について ご回答 (5社)

A社	<u>(1) 良い</u>	(2) やや良い	(3) 普通	(4) やや悪い	(5) 悪い
B社	(1) 良い	<u>(2) やや良い</u>	(3) 普通	(4) やや悪い	(5) 悪い
C社	(1) 良い	(2) やや良い	<u>(3) 普通</u>	(4) やや悪い	(5) 悪い
D社	(1) 良い	(2) やや良い	(3) 普通	<u>(4) やや悪い</u>	(5) 悪い
E社	<u>(1) 良い</u>	(2) やや良い	(3) 普通	(4) やや悪い	(5) 悪い

$$DI = \left[\frac{((\text{良い} \times 2 + \text{やや良い} \times 1) \div 5社)}{[60.0\%]} - \frac{((\text{やや悪い} \times 1 + \text{悪い} \times 0) \div 5社)}{[20.0\%]} \right] = 40.0\%$$

全体調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
15.6%	20.0%	4.4%	11.1%	19.3%	8.2%	14.8%	17.8%	3.0%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
23.7%	12.6%	-11.1%	12.6%	14.1%	1.5%	10.4%	13.3%	2.9%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
7.4%	-2.2%	-9.6%	2.2%	-5.2%	-7.4%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
63.9%	54.5%	-9.4%	31.9%	28.7%	-3.2%			

■概況 ※()内はDI値

全業種合計の業況判断DIは前回調査時より4.4ポイント上昇し、良化傾向(20.0%)を継続している。良化幅を下方へと向かわせたのは不動産業、建設業、医療・福祉。他業種については、好調な業況を継続しており、先行きは楽観視できないものの、良好な先行きを示唆している。

また、売上についても不動産業、建設業、医療・福祉で大幅に減少したが、全業種全体では前回比8.2ポイント上昇し良化傾向を継続し、特に、サービス業、運輸業については大幅に変化幅を上昇し、良化傾向を深化させた。

収益面については全業種合計で前回比3.0ポイント上昇し良化傾向を継続。需要が好調なサービス業については、前回比21.4ポイントと大幅に上昇した。

収益面で良化幅を下方へと向けた業種は不動産、建設業、医療・福祉の3業種。特に、建設業については、施工高の減少や原材料価格の悪化から、前回比21.4ポイントと大幅に下降し、横ばい状態となった。

なお、1~3月の収益見通しでは、前回に比べて「良い」と回答した企業が減少した反面、「悪い」と回答した企業も減少して、半数以上が「普通」と予想しており、現状を維持していくものと見込まれる。

国内景気は、金融緩和政策の継続による景気の下支えが見込まれる中、海外に目を向けると、米国トランプ大統領による政策を通じた不安感の高まりや、為替レートの変動などを通じた日本経済への影響、加えて欧州情勢への注視が必要となってきている。

なお、借入によって資金調達を行ったのは全体の54.5%となり、前回比9.4ポイント減少した。

全業種合計の前年同期比売上は全体的に前回調査時1.5ポイント増加し、良化傾向(14.1%)を継続。前年同期比の収益についても、前回比2.9ポイント増加し、全体的に増加傾向(13.3%)を継続している。

なお、設備投資を行ったのは全体の28.7%であり、前回比3.2ポイント減少した。

慢性化する人材不足については改善の糸口が見つからない状況にある。同業者競争の激化は、企業の人材面でも市場消費人口面でも減少し、深刻化していることが伺える。それに伴い、人材確保・育成への注力姿勢が強くなり、人件費を始めとした経費の増加も重要な課題となってきている。

平成29年度の日本の景気の見通しについては半数以上の企業が「普通」と回答しており、日本経済への期待感は薄いものの、自社の景気については良くなると回答した企業は3割を超え、緩やかな回復が見込まれる結果となった。

■特別調査	平成29年度の経営見直しおよび、今後3ヶ月(1-3月)の業績見込み
平成29年日本の景気見直し	「良い」2社、「やや良い」24社、「普通」79社、「やや悪い」27社、「悪い」3社
平成29年貴社の景気見直し	「良い」6社、「やや良い」33社、「普通」78社、「やや悪い」16社、「悪い」2社
平成29年における貴社の売上伸率の見直し(対前年比)	「30%以上増加」1社、「20~29%の増加」1社、「10~19%の増加」27社、「10%未満の増加」40社
貴社における、自社の業況が向上く転換点の見直し	「変わらない」49社、「10%未満の減少」11社、「10~19%の減少」3社、「20~29%の減少」2社、「30%以上の減少」1社
業績(1-3月見込み)	「すでに上向いている」34社、「6ヶ月以内」18社、「1年後」30社、「2年後」18社
売上額(1-3月見込み)	「3年後」10社、「3年超」8社、「見直しは立たない」16社
業績(1-3月見込み)	「良い」4社、「やや良い」25社、「普通」91社、「やや悪い」14社、「悪い」1社
売上額(1-3月見込み)	「良い」4社、「やや良い」30社、「普通」86社、「やや悪い」14社、「悪い」1社
収益(1-3月見込み)	「良い」5社、「やや良い」24社、「普通」93社、「やや悪い」12社、「悪い」1社

業種別の概況・経営上の問題点・当面の対策・その他特別に調査した項目については、次ページ以降に内容を記載しております。

業種別
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
15.4%	35.9%	20.5%	12.8%	30.8%	18.0%	35.9%	38.5%	2.6%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
30.8%	15.4%	-15.4%	17.9%	23.1%	5.2%	17.9%	28.2%	10.3%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
2.6%	7.7%	5.1%	-2.6%	-12.8%	-10.2%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
62.9%	76.9%	14.0%	25.7%	31.6%	5.9%			

■概況 ※()内はDI値

製造業全体の業況判断DIは前回調査時に比べて20.5ポイントと大幅に上昇し、良化傾向(35.9%)を拡張した。

加えて、売上金額も前回比18.0ポイント大幅に上昇し、良化傾向(30.8%)を続伸した。

一方、収益については、前回比2.6ポイントと小幅ながらも上昇し、良化傾向(38.5%)を維持した。

販売価格と原材料価格については前回調査時と景況感は変わらないものの、業種全体では売上・収益両面で依然として良化傾向を継続している。

一方で資金繰りについては、前回比15.4ポイント下降したものの、良化傾向(15.4%)を維持した。

なお、借入によって資金調達を行ったのは全体の76.9%となっており、前回比14.0ポイント上昇した。

前年同期比売上は前回比5.2ポイント上昇し、増加傾向(23.1%)を継続。同収益については前回調査時より10.3ポイント上昇し、良化傾向(28.2%)を拡張。残業時間は前回比5.1ポイント上昇し、良化傾向(7.7%)を継続した。一方人材については、前回より10.2ポイント改悪し、不足傾向(-12.8%)を拡張した。設備投資を行った先は全体の31.6%で、前回より5.9ポイント増加した。

■経営上の問題点

「経費の増加」が13社でトップ。次点で「売上停滞・減少」が12社、「人手不足」「同業者競争の激化」が各々9社と続く。「原材料高」を問題点として注視してきたが、注目は「経費の増加」「人件費の増加」といった自社努力で削減可能な支出面へと移り、収益確保に向けた経費見直しが問題となっている。

■当面の対策

依然、対策としては「販路拡大」が最も多く23社で重点施策とされている。好調な業況から、人手不足が問題視されており、「人材確保」が11社、「社員教育」が5社で重点経営施策に挙げられ、人事態勢への強化に取組む姿勢が伺えた。

■特別調査	平成29年度の経営見直しおよび、今後3ヶ月(1-3月)の業績見込み
平成29年日本の景気見通し	「良い」1社、「やや良い」5社、「普通」25社、「やや悪い」7社、「悪い」1社
平成29年貴社の景気見通し	「良い」1社、「やや良い」14社、「普通」19社、「やや悪い」4社、「悪い」1社
平成29年における貴社の売上伸率の見通し(対前年比)	「30%以上増加」0社、「20~29%の増加」0社、「10~19%の増加」10社、「10%未満の増以」11社 「変わらない」13社、「10%未満の減少」3社、「10~19%の減少」0社、「20~29%の減少」1社、「30%以上の減少」1社
貴社における、自社の業況が向上く転換点の見通し	「すでに上向いている」12社、「6ヶ月以内」8社、「1年後」6社、「2年後」3社 「3年後」2社、「3年超」2社、「見通しは立たない」6社
業績(1-3月見込み)	「良い」1社、「やや良い」10社、「普通」24社、「やや悪い」3社、「悪い」1社
売上額(1-3月見込み)	「良い」1社、「やや良い」12社、「普通」20社、「やや悪い」5社、「悪い」1社
収益(1-3月見込み)	「良い」1社、「やや良い」11社、「普通」23社、「やや悪い」3社、「悪い」1社

業況、売上額DIともに、前回調査時より大幅に上昇して、良化傾向を拡張しております。一方で、販売価格と原材料価格は前回調査時と業況感は変わらないながらも良化傾向を維持し、収益についても、良化傾向を順調に継続しております。為替の不安定要素はあるものの「原材料高」への取組みから、自社努力で可能な「経費」削減による収益確保に向けた対策に注視する姿勢が伺えます。なお、今後の業績・売上額・収益の各見込み(1月~3月)については「良い」「やや良い」と回答した企業は減少し「普通」と回答した企業が増え、今後も現状維持を継続していくものと見込まれます。

業種別
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
17.6%	5.9%	-11.7%	17.6%	-11.8%	-29.4%	17.6%	0.0%	-17.6%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
17.6%	5.9%	-11.7%	-5.9%	-11.8%	-5.9%	0.0%	-11.8%	-11.8%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
5.9%	5.9%	0.0%	11.8%	5.9%	-5.9%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
61.5%	41.2%	-20.3%	8.3%	12.5%	4.2%			

■概況 ※()内はDI値

不動産業全体の業況判断DIは良化傾向(5.9%)を維持したものの、前回は11.7ポイントと大幅に下降した。また、売上金額については、前回調査時より29.4ポイント大幅下落し、悪化傾向(-11.8%)に転じた。販売価格の悪化と改善しない仕入価格DIから、収益面では、前回は17.6ポイント下降して横ばい状態となった。

また、資金繰りに関しても前回は11.7ポイント下降したものの、良化傾向(5.9%)を維持した。なお、借入によって資金調達を行った先は全体の41.2%であり、前回は20.3ポイント減少した。

一方で、売上における前年同期比では、前回は5.9ポイント下降して悪化傾向(-11.8%)を拡張。また、同収益についても、前回は11.8ポイント下降し、悪化傾向(-11.8%)に転じた。残業時間は前回調査時と変わらず、良化傾向(5.9%)を維持。人材不足については、前回調査時よりは5.9ポイント改善したものの、改善傾向(5.9%)を維持している。設備投資は前回は4.2ポイント増加したものの、12.5%の先にとどまっている。

■経営上の問題点

経営課題としては、前回と同様「同業者競争の激化」が6社でトップ。次点で「仕入高」と「利益幅の縮小」が各々4社、「売上停滞・減少」「経費の増加」「商圏人口の減少」が各々3社と続いた。

■当面の対策

「販路拡大」に注力する企業が9社で依然としてトップ。同数で「技術力・営業力強化」が対策として挙げられた。続いて「経費節減」と「仕入先開拓」が各々5社となり、人的要因強化による販路拡大に取り組む姿勢が伺えた。

■特別調査	平成29年度の経営見直しおよび、今後3ヶ月(1-3月)の業績見込み
平成29年日本の景気見通し	「やや良い」6社、「普通」6社、「やや悪い」5社
平成29年貴社の景気見通し	「やや良い」4社、「普通」13社
平成29年における貴社の売上伸率の見通し(対前年比)	「30%以上増加」0社、「20~29%の増加」0社、「10~19%の増加」4社、「10%未満の増以」2社 「変わらない」9社、「10%未満の減少」2社、「10~19%の減少」0社、「20~29%の減少」0社、「30%以上の減少」0社
貴社における、自社の業況が上向く転換点の見通し	「すでに上向いている」3社、「6ヶ月以内」1社、「1年後」4社、「2年後」2社 「3年後」2社、「3年超」2社、「見通しは立たない」3社
業績(1-3月見込み)	「やや良い」2社、「普通」13社、「やや悪い」2社
売上額(1-3月見込み)	「やや良い」1社、「普通」15社、「やや悪い」1社
収益(1-3月見込み)	「やや良い」1社、「普通」14社、「やや悪い」2社

業況については良化傾向を維持しているものの前回調査時より11.8ポイント下降、売上については29.4ポイントと大幅に下降してDIは悪化傾向に転じました。好調だった業況も前回、今回と下降方向へと向かい、平成29年度の企業の見通しについても楽観視出来ない状況となっております。依然として激しい同業者競争の中で収益確保のためには、販路拡大と経費の節減への対策が重要視されており、人材力強化に取り組む姿勢が伺えます。業績・売上額・収益の見込みは大半が「普通」となっており、前回は比べて「良い」と回答した企業はなく、厳しい現状を維持していくものと見込まれます。

業種別
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
35.7%	35.7%	0.0%	28.6%	64.3%	35.7%	14.3%	35.7%	21.4%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
21.4%	28.6%	7.2%	14.3%	57.1%	42.8%	14.3%	50.0%	35.7%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
7.1%	-7.1%	-14.2%	0.0%	-14.3%	-14.3%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
61.5%	38.5%	-23.0%	46.2%	25.0%	-21.2%			

■概況 ※()内はDI値

医療・福祉を除くサービス業の業況判断DIは、前回調査時と変わらず、良化傾向(35.7%)を継続している。売上金額については、前回比35.7ポイント大幅に上昇し、良化傾向(64.3%)を拡張させた。一方で、材料価格DIは前回比21.4ポイント大幅に下降し、悪化傾向(-7.1%)に転じた。収益については、前回比21.4ポイントと上昇し、良化傾向(35.7%)を継続した。

また、借入によって資金調達を行った先は全体の38.5%であり、前回比23.0ポイント下降した。

一方で、前年同期比売上は前回比42.8ポイント大幅に増加し、順調に増加傾向(57.1%)を継続した。同収益についても前回比35.7ポイント大幅に増加し、良化傾向(50.0%)は継続した。順調な業況を反映してか、残業時間は前回比14.2ポイント下降し、悪化傾向(-7.1%)に転じ、人材についても前回比14.3ポイント改悪となり、不足傾向(-14.3%)となった。設備投資を行った先は全体の25.0%で、前回調査時より21.2ポイント減少した。

■経営上の問題点

前回次点だった「人手不足」が6社でトップ。続いて「同業者競争の激化」と「経費の増加」が5社、「料金価格」が4社と続いた。好調な業況を反映してか、「人手不足」が深刻な問題となっている。利鞘確保にむけた「料金価格」の見直しが問題点として注視されるようになってきた。

■当面の対策

依然として「人材確保」と「販路拡大」が5社で当面の対策として取組まれている。次点で「社員教育」が3社と続き、人が資本の業種だけに「人材」確保・育成が勝ち残りの鍵となっている。

■特別調査	平成29年度の経営見直しおよび、今後3ヶ月(1-3月)の業績見込み
平成29年日本の景気見通し	「やや良い」5社、「普通」7社、「やや悪い」2社
平成29年貴社の景気見通し	「良い」1社、「やや良い」4社、「普通」8社、「やや悪い」1社
平成29年における貴社の売上伸率の見通し(対前年比)	「30%以上増加」0社、「20~29%の増加」0社、「10~19%の増加」7社、「10%未満の増以」5社 「変わらない」1社、「10%未満の減少」1社、「10~19%の減少」0社、「20~29%の減少」0社、「30%以上の減少」0社
貴社における、自社の業況が上向く転換点の見通し	「すでに上向いている」3社、「6ヶ月以内」2社、「1年後」5社、「2年後」2社 「3年後」1社、「3年超」1社、「見通しは立たない」0社
業績(1-3月見込み)	「良い」1社、「やや良い」5社、「普通」7社、「やや悪い」1社
売上額(1-3月見込み)	「良い」1社、「やや良い」7社、「普通」5社、「やや悪い」1社
収益(1-3月見込み)	「良い」2社、「やや良い」3社、「普通」9社

業況DIは前回比変わらず好調な良化傾向を維持し、売上・収益の状況ともに変化幅を上方へ拡張し、好調な業況を拡張しております。需要が好調なだけに、対応する人材不足が深刻化しており、それに併せて作業時間の拡大から残業時間が改悪傾向に転じております。好調な業況の一方で、材料価格についてはDIを大幅に下降して悪化傾向に転じ、料金価格の見直しを問題視する傾向が強くなってきております。今後3ヶ月の、業績・売上額・収益の見込みは「良い」と回答した企業が前回より大幅に増加し、今後も好調な業況が継続すると見込まれます。

業種別
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
-12.9%	-3.2%	9.7%	-19.4%	3.2%	22.6%	-25.8%	-3.2%	22.6%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
6.5%	6.5%	0.0%	-6.5%	0.0%	6.5%	-6.5%	-3.2%	3.3%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
3.2%	9.7%	6.5%	9.7%	6.5%	-3.2%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
51.9%	37.9%	-14.0%	25.9%	34.5%	8.6%			

■概況 ※()内はDI値

卸売・小売業全体の業況判断DIは前环比9.7ポイント上昇したものの、依然として悪化傾向(-3.2%)を継続した。一方で売上に関しては、前环比22.6ポイント大幅に上昇し、良化傾向(3.2%)に転じた。また、収益についても前环比22.6ポイント大幅に上昇したものの、依然として悪化傾向(-3.2%)を継続した。仕入れ価格については、前环比12.9ポイント下降し、悪化傾向(-19.4%)を拡張させた。

在庫過多は前环比9.7ポイント悪化し、悪化傾向(-22.6%)を拡大した。一方で、販売価格については前环比9.7ポイント上昇したものの、悪化傾向(-12.9%)を継続している。

なお、借入によって資金調達を行った先は全体の37.9%となり、前环比14.0ポイント減少した。

前年同期比売上は前环比6.5ポイント上昇し、横ばい状態となった。

同収益についても前环比3.3ポイント上昇したものの、悪化傾向(-3.2%)を継続した。

残業時間は前环比6.5ポイント上昇し、改善傾向(9.7%)を拡張し、人材不足は前环比3.2ポイント下降したものの、改善傾向(6.5%)を維持した。

設備投資は34.5%の先となり、前环比8.6ポイントの増加となっている。

■経営上の問題点

依然として「同業者競争の激化」が12社でトップ。次点で「材料高」が9社、「経費の増加」が7社と続いている。個人消費の回復は未だ低調な状況にある中で、材料高もあいまって、業況は依然として厳しい状況にある。

■当面の対策

依然として「販路拡大」が17社でトップ。次点で材料高と売上停滞・減少をカバーするための「経費節減」が12社で続いた。季節要因、外的要因等により業況が左右される業種だけに、「資金繰り安定」に向けた施策への取組みが重要視されるようになってきた。

■特別調査	平成29年度の経営見直しおよび、今後3ヶ月(1-3月)の業績見込み
平成29年日本の景気見通し	「良い」1社、「やや良い」3社、「普通」21社、「やや悪い」6社
平成29年貴社の景気見通し	「良い」1社、「やや良い」5社、「普通」20社、「やや悪い」4社、「悪い」1社
平成29年における貴社の売上伸率の見通し(対前年比)	「30%以上増加」0社、「20~29%の増加」0社、「10~19%の増加」4社、「10%未満の増以」9社 「変わらない」14社、「10%未満の減少」2社、「10~19%の減少」1社、「20~29%の減少」1社、「30%以上の減少」0社
貴社における、自社の業況が上向く転換点の見通し	「すでに上向いている」3社、「6ヶ月以内」6社、「1年後」9社、「2年後」7社 「3年後」1社、「3年超」1社、「見通しは立たない」4社
業績(1-3月見込み)	「良い」1社、「やや良い」3社、「普通」23社、「やや悪い」4社
売上額(1-3月見込み)	「良い」1社、「やや良い」3社、「普通」23社、「やや悪い」4社
収益(1-3月見込み)	「良い」1社、「やや良い」3社、「普通」23社、「やや悪い」4社

依然として低調な個人消費が続いており厳しい状況にはあるものの、業況・売上・収益DIともに変化幅を大幅に上方に向かわせました。材料高と販売価格の低下が悪化傾向から抜け出せず、安定的な資金繰り確保に向けた態勢構築に取り組む姿勢が伺えます。

業績・売上・収益見込みについては、大半の企業が「普通」と回答しておりますが、「やや良い」と回答した企業が前回より増加し、低調な業況からの緩やかな回復を示唆する結果となりました。

業種別
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
28.6%	7.1%	-21.5%	28.6%	0.0%	-28.6%	21.4%	0.0%	-21.4%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
42.9%	42.9%	0.0%	21.4%	-28.6%	-50.0%	0.0%	-28.6%	-28.6%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
7.1%	-35.7%	-42.8%	0.0%	0.0%	0.0%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
75.0%	50.0%	-25.0%	25.0%	7.1%	-17.9%			

■概況 ※()内はDI値

建設業全体の業況判断DIは前回は21.5ポイント下降したものの、良化傾向(7.1%)を継続している。売上金額についても、前回は28.6ポイント大幅に下降し、横ばい状態となった。受注残高については、前回調査時と変わらず、良化傾向(21.4%)を維持した。

資金繰りについても前回調査時変わらず、良化傾向(42.9%)を継続。収益については、施工高の減少や原材料価格の悪化から、前回は21.4ポイント下降し、横ばい状態となった。

借入によって資金調達を行った先は50.0%で前回は25.0ポイント減少した。

前年同期売上は前回は50.0ポイント大幅に減少し、悪化傾向(-28.6%)に転じた。一方で、同収益についても前回は28.6ポイント減少し、悪化傾向(-28.6%)に転じた。

残業時間は前回は42.8ポイント改悪となり、悪化傾向(-35.7%)に転じた。

人材不足については前回調査時と変わらず、横ばい状態のまま。

なお、設備投資を行った先は7.1%となっており、前回は17.9ポイント減少した。

■経営上の問題点

依然として「同業者競争の激化」が6社と最も多く、同数で改善しない原材料価格の高騰から「利益幅の減少」が挙げられた。

■当面の対策

「技術力・営業力強化」が6社でトップ。次点で、「販路拡大」が5社と続いた。

同業者間競争が激しい業界において、陣容によるセールス力の差別化は重要課題であり、加えて残業時間も改悪しており、働き方の効率を高めて収益向上を図ることの必要性が伺える結果となった。

■特別調査	平成29年度の経営見直しおよび、今後3ヶ月(1-3月)の業績見込み
平成29年日本の景気見通し	「やや良い」1社、「普通」6社、「やや悪い」6社、「悪い」1社
平成29年貴社の景気見通し	「やや良い」3社、「普通」6社、「やや悪い」5社
平成29年における貴社の売上伸率の見通し(対前年比)	「30%以上増加」0社、「20~29%の増加」1社、「10~19%の増加」0社、「10%未満の増以」2社 「変わらない」8社、「10%未満の減少」2社、「10~19%の減少」1社、「20~29%の減少」0社、「30%以上の減少」0社
貴社における、自社の業況が向上転換点の見通し	「すでに上向いている」4社、「6ヶ月以内」0社、「1年後」1社、「2年後」3社 「3年後」3社、「3年超」1社、「見通しは立たない」2社
業績(1-3月見込み)	「やや良い」1社、「普通」9社、「やや悪い」4社
売上額(1-3月見込み)	「やや良い」2社、「普通」9社、「やや悪い」3社
収益(1-3月見込み)	「やや良い」1社、「普通」10社、「やや悪い」3社

冬のシーズンに入ったこともあり、好調だった前回から業況は変化幅を下方へと向かわせ、厳しい状況を伺わせる結果となりました。原材料価格は相変わらず悪化傾向にあり、売上額の減少につながっております。

利益幅の縮小を改善する為にも、いかにして同業者との差別化を図り顧客を獲得していくかが課題となってきております。

1~3月の業績・売上額・収益の各見込みでは全社が「普通」か「やや良い」が大多数としながらも、「やや悪化」と回答した企業が若干増加し、引き続き厳しい状況が続くと見込まれます。

業種別
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
55.6%	66.7%	11.1%	44.4%	77.8%	33.4%	44.4%	44.4%	0.0%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
33.3%	11.1%	-22.2%	55.6%	77.8%	22.2%	55.6%	66.7%	11.1%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
33.3%	-33.3%	-66.6%	11.1%	0.0%	-11.1%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
75.0%	66.7%	-8.3%	75.0%	66.7%	-8.3%			

■概況 ※()内はDI値

運輸業全体の業況判断DIは前回は11.1ポイント上昇し、良化傾向(66.7%)を拡張した。売上金額についても、前回は33.4ポイントと大幅に上昇し、依然として増加傾向(77.8%)を継続している。燃料価格についても、前回は33.3ポイント上昇し、良化傾向(22.2%)に転じた。また、収益面についても前回調査時と変わらず、良化傾向(44.4%)を継続している。一方、資金繰りは前回は22.2ポイント減少したものの、良化傾向(11.1%)を維持している。

なお、借入によって資金調達を行った先は全体の66.7%であり、前回は8.3ポイント減少した。

前年同期比売上は前回は22.2ポイント上昇し、増加傾向(77.8%)を継続。同収益も同様に、前回は11.1ポイント上昇し、増加傾向(66.7%)を継続している。残業時間は前回は66.6ポイント大幅に下降し、悪化傾向(-33.3%)に転じた。

また、人材不足は前回は11.1ポイント下降し、横ばい状態となった。なお、設備投資を行った先は66.7%となり前回は8.3ポイント減少となった。

■経営上の問題点

「人手不足」が7社でトップ。好調な業況に反比例する形で、人員不足から一人当たりにかかる負担が多くなり、人員確保が喫緊の課題として取上げられた。

■当面の対策

「人材確保」が8社でトップ。次点で「社員教育」が4社と続き、好調な業況の続伸の足かせとなる可能性の高い、人員不足解消に注力する姿勢が強く伺える結果となった。

■特別調査	平成29年度の経営見直しおよび、今後3ヶ月(1-3月)の業績見込み
平成29年日本の景気見通し	「やや良い」2社、「普通」6社、「悪い」1社
平成29年貴社の景気見通し	「良い」1社、「普通」7社、「やや悪い」1社
平成29年における貴社の売上伸率の見通し(対前年比)	「30%以上増加」1社、「20~29%の増加」0社、「10~19%の増加」0社、「10%未満の増以」6社 「変わらない」1社、「10%未満の減少」0社、「10~19%の減少」1社、「20~29%の減少」0社、「30%以上の減少」10社
貴社における、自社の業況が上向く転換点の見通し	「すでに上向いている」4社、「6ヶ月以内」0社、「1年後」2社、「2年後」1社 「3年後」1社、「3年超」0社、「見通しは立たない」0社
業績(1-3月見込み)	「良い」1社、「やや良い」2社、「普通」6社
売上額(1-3月見込み)	「良い」1社、「やや良い」3社、「普通」5社
収益(1-3月見込み)	「良い」1社、「やや良い」3社、「普通」5社

業況・売上ともに変化幅を拡張し、好調な良化傾向を継続しております。収益についても、前回調査時と変わらず、良化傾向を継続しております。料金価格・燃料価格については良化傾向に転じたものの、資金繰りについては変化幅を下方へと向かわせ安定的な資金繰りが課題となってきております。また、好調な業況に比例して人員不足と人員不足による一人当たりの労働時間の負担が増加し、人員不足解消が喫緊の課題となっております。

1月から3月の業績・売上額・収益見込みについては、今後も良好な業況を継続すると見込まれます。

業種別
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
18.2%	9.1%	-9.1%	9.1%	-9.1%	-18.2%	18.2%	9.1%	-9.1%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
27.3%	-27.3%	-54.6%	27.3%	9.1%	-18.2%	18.2%	9.1%	-9.1%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
18.2%	-9.1%	-27.3%	-18.2%	-27.3%	-9.1%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
81.8%	54.5%	-27.3%	55.6%	27.3%	-28.3%			

■概況 ※()内はDI値

医療・福祉分野の業況判断DIは前回は9.1ポイント下降したものの、良化傾向(9.1%)を継続。売上金額については、前回は18.2ポイント大幅に下降し、悪化傾向(-9.1%)に転じた。ベット稼働率については前回調査時と変わらなかったものの、通院者数については前回は18.2ポイント減少して悪化傾向(-9.1%)に転じた。加えて、収益についても前回は9.1ポイント下降したものの、良化傾向(9.1%)を維持した。また、資金繰りについては前回は-54.6ポイントと大幅に下降し、悪化傾向(-27.3%)に転じた。

なお、借入によって資金調達を行った先は全体の54.5%であり、前回は27.3ポイント減少している。

また、前年同期比売上は前回は18.2ポイント下降したものの、良化傾向(9.1%)を維持。同収益についても、前回は9.1ポイント下降したものの、良化傾向(9.1%)を維持した。残業時間は前回は27.3ポイント大幅に下降し、悪化傾向(-9.1%)に転じた。人材面では、前回は9.1ポイント下降し、不足傾向(-27.3%)を深化させた。加えて27.3%の先で設備投資を行っており、前回は28.3ポイント減少した。

■経営上の問題点

依然として「人手不足」が最も多く8社。続いて「売上停滞・減少」が3社、「利益幅の減少」「人件費の増加」が各々2社で続いた。慢性的な「人手不足」は深刻さを増し、大きな課題として捉えられている。

■当面の対策

「人材確保」が依然として最も多く7社でトップ。次点で「社員教育」と「経費節減」が各々4社と続いた。優秀な人材確保に注力することに加えて、通院者数の減少の改善、ベット稼働率を上げ、収入を向上する施策が重要となってきている。

■特別調査	平成29年度の経営見直しおよび、今後3ヶ月(1-3月)の業績見込み
平成29年日本の景気見通し	「やや良い」2社、「普通」8社、「やや悪い」1社
平成29年貴社の景気見通し	「良い」2社、「やや良い」3社、「普通」5社、「やや悪い」1社
平成29年における貴社の売上伸率の見通し(対前年比)	「30%以上増加」0社、「20~29%の増加」0社、「10~19%の増加」2社、「10%未満の増以」5社 「変わらない」3社、「10%未満の減少」1社、「10~19%の減少」0社、「20~29%の減少」0社、「30%以上の減少」0社
貴社における、自社の業況が向上へ転換点の見通し	「すでに上向いている」5社、「6ヶ月以内」1社、「1年後」3社、「2年後」0社 「3年後」0社、「3年超」1社、「見通しは立たない」1社
業績(1-3月見込み)	「やや良い」2社、「普通」9社
売上額(1-3月見込み)	「やや良い」2社、「普通」9社
収益(1-3月見込み)	「やや良い」2社、「普通」9社

業況・売上・収益ともに変化幅を下方へと向かわせ、厳しい状況を伺わせる結果となりました。ベット稼働率と通院者数の改善が振るわない状況にあり、加えて慢性的な人員不足からサービスの向上不足、稼働率停滞といった悪循環が伺えます。人材確保と人材育成が課題となり、人的面への注力する姿勢が強く表れる結果となりました。1~3月の業績・売上額・収益の各見込みでは全社が「普通」か「やや良い」としており、厳しい状況にあるものの業況は現状を継続していくと見込まれます。